

大分県立高等学校第三者評価【評価書B】

大分県教育委員会

評価実施年度	令和 3 年度	学校名	大分県立 大分雄城台 高等学校	
学校教育目標	「誠実・自主・創造」の校訓のもと、社会において逞しく生き抜き、積極的に社会貢献できる生徒の育成を目指す。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	教科等横断的な視点	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の使命や価値、時代や社会のニーズ、学校の教育課題等を踏まえ、明確な学校経営ビジョンが策定されているか。 ○学校の教育目標によって育成を目指す資質・能力が明確にされ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・学校教育目標とESDで求められる力を組み合わせ、社会貢献できる生徒の育成に必要な6つ資質・能力が設定されている。 ・6つの資質・能力は、授業の単元配列表や特別活動のアンケート等、随所で活用されており、これらの資質・能力を育むことを目的とした学校経営ビジョンや重点目標を、教職員や生徒と共有できている。優れた取組である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESD教育課程研究指定校事業に取り組み、ESDの視点に立った本校で育成したい6つの資質・能力の共有化と育成に向けた取組の明確化が図られたので、引き続き学校全体でESDを推進し、社会貢献できる生徒の育成を図っていく。 ・引き続き、育成したい6つの資質・能力で全ての教育活動を繋ぎ、授業はもちろん学校行事や生徒会活動において、アンケート調査による生徒の自己評価を実施し、検証結果をさらなる改善に役立てる。
	PDCAサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の抱える課題解決に向けて目標の重点化が図られ、自己評価・学校関係者評価等を活用して検証・改善が行われているか。 ○着実な学校改善が図られるよう、校務分掌が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・生徒、保護者、学校関係者による定点評価を行い、「課題解決力」と「発信力」を重点課題として捉え、これらの資質・能力の育成に向けて取り組んでいる。その結果、2年間で改善が見られており、目標の重点化を図った成果が出ている。 ・学校教育目標、中期目標、重点目標の関連や、育成したい資質・能力は明確であるが、取組指標の中に具体性に欠ける項目や、達成指標との関連があいまいなものがある。検証を充実させるために、指標の検討が求められる。 ・生徒や保護者へのアンケートについて、質問の仕方や項目の細分化等の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の課題である生徒の自主性、創造性の育成に向けて、引き続き「課題解決力」と「発信力」を重点課題として捉え、これらの資質・能力の育成に向けて目標を重点化し、自己評価や学校関係者評価を有効に活用して、検証・改善を行っていく。 ・分掌ごとにESDの推進における具体的な取組指標や達成指標等の策定、及び自己評価のための各種アンケート調査について、質問の仕方や項目の細分化等の見直しを行うとともに定量化だけでなく定量化も図られるよう工夫し、効果的なPDCAサイクルによる着実な学校改善を図っていく。
	社会との連携・接続	<ul style="list-style-type: none"> ○「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用や、学校便りの発行など、情報の伝達・公開を適切に行っているか。 ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・中学校等との連携や地域の外部人材を活用した取組を行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・ホームページを活用した情報発信が頻繁に行われている。また、学校便り「雄城坂」以外にも、ほけんだよりや教育相談だより等を活発に発行している。生徒の活躍もメディアに多く掲載されており、優れた取組である。 ・生徒や保護者へのアンケートでICT端末を活用することにより、迅速な回答ができるようになっている。 ・卒業生や外部人材による講演や、地域の大学との連携が活発に行われており、大いに評価できる。 ・中学校との連携や地域の人材活用については、具体的な取組が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの更新や定期的な学校便りの発行に加え、新聞部や放送部などの生徒による情報発信力を高め、学校の魅力をより広く、より強く発信できるように努める。 ・学校ホームページやClassi等を活用した、緊急時における組織的かつ効率的な情報発信システムの整備を引き続き進める。 ・外部機関とのオンラインを含めたネットワークの構築を図るために、探究活動のフィールドワークでの地域人材の活用や総合的な探究の時間等での中学校との連携強化に取り組む。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究を計画的に実施することなどを通じ、授業改善に学校全体としてPDCAサイクルを活用し、組織的に取り組んでいるか。 ○授業の活性化が図られているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ○生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・ESDを軸とした教育課程研究を活かして、授業改善の取組が組織的に行われている。特に単元デザインシートは優れた取組であり、今後は効果的な活用が期待される。 ・生徒の学習意欲は高く、授業の雰囲気も良かったが、「本時の目標」が明示されていない教室が散見された。生徒アンケートで「目標を意識して授業を受けている」と回答した生徒が多いことに着目し、組織的な取組の推進が求められる。 ・授業観察の中で、生徒を引きつける優れた授業がみられた一方、教員間の差も感じられた。「授業内容の面白さ」、「資料の面白さ」、「教員の対話の仕方」等、生徒の意欲を高める工夫を全体で共有し、授業水準をさらに向上させることが求められる。 ・生徒ヒアリングでも、対話的な学びのある授業ほど満足度が高いことがうかがえた。今後も全教科で対話的な学びを推進することが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDの視点を踏まえた授業とSDGsを題材とした探究活動(OGIプロジェクト)の教科等横断的な連携をさらに進めるとともに、観点別評価の完全実施に向けて、単元デザインシートを活用した「指導と評価の一体化」のさらなる充実を図る。 ・教育課程研究指定校事業の成果を生かし、年2回の授業研究会を軸に組織的な授業改善を引き続き行い、教員全員が「本時の目標」を明示の上で、付けたい力の明確化や付けたい力と生徒の興味喚起を意識した教材の工夫、及び深い思考を促す発問の工夫等により、生徒の学習意欲を高めるとともに授業水準のさらなる向上を図る。 ・GIGAスクール構想の実現に向けた一人一台端末を効果的に活用した新たな教育方法の研究を進め、班での意見交流や電子黒板への意見投影による全体交流や議論を深めることで、多様な他者との対話的な学びをより一層推進する。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。 ○いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい。 ・挨拶と掃除に力を入れており、校内の生活環境はとても良い。このような「心の教育」に加え、OGIメモの活用等によって、生徒理解は十分に図られている。 ・生徒指導に関する校則の見直しについても、時代の変化に対応した柔軟な姿勢がみられ、大いに評価できる。 ・生徒から出されるサインに気付くためのチェックシートや、定期的な会議での情報共有など、いじめや不登校を防ぐ取組は充実している。保健室やスクールカウンセラーの活用も十分に行われているため、今後は相談内容等の分析から、不登校を未然に防ぐ取組が期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の醸成による「協働」と「自他の尊重」の向上を目指し、挨拶と清掃の徹底による主体性の育成を図り、OGIメモを活用した人間関係づくりプログラムによる自己理解や他者理解の深化、及びいじめの未然防止に向けた組織的な取組を引き続き推進する。 ・不登校対策については、保健教育相談連絡会やケース会議等を効果的に運用するとともに、相談内容等の分析を含めてSCやSSWとクラス担任との連携強化を図り、不登校の未然防止につなげる。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。 ○学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてよい。 ・通学路の危険箇所マップの作成や生徒会と連携した啓発など、通学時の事故を防ぐための取組が充実しており、事故発生件数も減少している。 ・抜き打ちの防災訓練を行うなど、緊急事態発生時に適切に対応するための取組もっており、大いに評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車事故防止については、引き続き学校の重点課題と捉え、「事故ゼロ」を目標に交通ルール・マナー遵守の徹底を図る。また、生徒が作成した通学路危険マップの活用や生徒会による啓発活動など、生徒の自主性を育てる取組を引き続き推進する。 ・防災の観点から、来年度入学生より上履きをスリッパから運動靴へと変更する。抜き打ちの防災訓練と併せて実効性のある安全教育をさらに推進する。
信頼される学校づくり	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のHRを廃止し、授業終了時刻を早めることで部活動の時間を確保する取組は、教員の残業時間減少や生徒の自主学习時間増加に繋がっており、優れた取組である。 ・17時30分以降の留守番電話や「早く帰る日」の設定など、働きやすい、休みやすい職場環境づくりも積極的に行っている。 ・ICTも有効活用されており、生徒や保護者への連絡を円滑にできており、業務改善につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を意識した時間管理の徹底はなされているので、今後も引き続き負担感の軽減をより実感できるように、適切なスクラップ&ビルドの実施やICT機器の活用による業務の効率化を推進していく。 ・部活動の指導のあり方が大きな課題であるので、生徒と教員の健康保持のためにも適切な休養日と活動時間を考えた毎月の活動計画の策定と生徒や保護者への周知徹底を図っていく。
	学校課題の解決に向けた取組等	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の家庭学習時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートからは、家庭学習時間とスマートフォン使用時間の関連がうかがえる。また、生徒ヒアリングにおいても、スマートフォンの使用により睡眠時間の少ない生徒がいるという声があった。目標達成に向けて、家庭でのスマートフォンの使い方指導も含めて、生活リズムを整えることが必要である。OGIメモをその一助としてほしい。 ・家庭学習時間を伸ばすためには、生徒が主体的に学習に取り組もうとする意欲の醸成が必要である。そのために、日常の授業の魅力が高めることが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの適切な使い方や睡眠時間の確保に向けて、学習自己モデルや模試結果シートなどを活用して学習計画を立てさせ、OGIメモを通して適切なタイムマネジメントをさせながら、生活リズムを整えさせる。 ・授業と家庭学習を効果的に運動させるために、魅力ある深い学びをもたらす授業づくりはもちろん、主体的に生徒が学ぶために必要な基礎的な知識習得のための予習や学習した内容を次の学習につなげるための復習に着実に取り組ませる。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の明確な学校経営ビジョンのもと、ESDを軸とした教育課程研究と学校教育目標を組み合わせ「育成したい6つの資質・能力」を明確化し、それを活かした学校運営が行われている。 ・研究の一環で作成した単元配列表や単元デザインシートにより、教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントが行われており、他校の参考となる優れた取組である。 ・本校の強みである「挨拶」、「清掃」、「文武両道」に励む中で、生徒の「心の教育」が十分に行われている。また、OGIメモを活用した人間関係プログラムなど、生徒理解に関する取組も効果的である。 ・課題であった自転車事故の防止や校則見直しについては、迅速かつ適切な取組が行われており大いに評価できる。 ・今後は、目標を明確にした「生徒を引きつける」授業づくりを推進するとともに、生徒が主体的に家庭学習時間を伸ばせるような取組をさらに進めることが期待される。 			
校長コメント(次年度の改善策)	<ul style="list-style-type: none"> ・ESD教育課程研究指定校事業に学校全体で取り組んだことにより、ESDの視点に立った本校で育成したい6つの資質・能力の共有化と育成に向けた取組の明確化が図られた。次年度も引き続き、育成したい6つの資質・能力で全ての教育活動を繋ぎ、学校全体でESDを推進していく。 ・新学習指導要領への対応に向けて、ESDの視点を踏まえた授業とSDGsを題材とした探究活動の評価・振り返りに重点を置いた研究を推進することができた。次年度は、観点別評価の完全実施に向けて、単元デザインシートを活用した「指導と評価の一体化」のさらなる充実を図る。 ・生徒一人一人に応じた全教職員参加の進路指導体制の充実により、進路意識の向上が図れた。次年度は、目標を可視化した魅力ある授業実践とそれに連動した家庭学習習慣の定着を図らせることにより、学習時間を確保させ学ぶ意欲や主体的な学習態度を醸成するとともに、GTZのグレードに応じた組織的な進路指導の充実を図る。 ・文武両道を推奨しながら、挨拶の徹底や清掃の指導、及びOGIメモを活用した人間関係づくりプログラム等により、積極的な生徒指導が実施できている。次年度も引き続き、部活動やSDGsへの貢献を意識した生徒会活動、及びボランティア活動の活性化を図るとともに、自転車交通事故の減少に向けた交通安全教育の充実を図る。 			